

令和元年度 “ふじのくに”^{しみん}士民協働 施策レビュー 改善提案への対応状況

1 基本情報

| | | | |
|--------|--|-------|------------|
| 議論した施策 | 魅力ある高等教育の振興 | | |
| 実施日/班名 | 9月7日(土) 第3班 | 担当部局名 | 文化・観光部 大学課 |
| 目標 | ○地域産業や地方自治体と教育機関、教育機関同士の連携を推進し、高等教育機関における教育・研究機能を充実させ、地域に貢献できる人材を育成する。 | | |
| 主な取組 | ① 静岡県立大学・静岡文化芸術大学の教育・研究機能の充実 ② 高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元 | | |

2 施策背景

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 少子化の一層の進展により、大学進学率は上昇傾向にあるものの、大学進学者は減少していくことが予測されている。 ■ 人生100年時代やグローバル化の進展など、社会情勢が急速に変化する中、地方大学には、地域の産業や行政を支える基盤として、地域に貢献する人材を育成することが求められている。 ■ 高等教育機関は「知と人材の集積拠点」として、その研究成果や知識・技能を地域課題の解決に活用するなど地域社会に還元することが求められている。 ■ 地域における質の高い教育機会を確保していくためには、各大学が持つ「強み」や「特色」を最大限有効に活用し、連携を強化することが求められており、本県では、2014年に「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」を設立し、大学連携や地域・産業界との連携による各種事業を展開している。 ■ 静岡県立大学、静岡文化芸術大学の両県立大学には、地域が求める人材の育成や研究成果の還元による地域への貢献という、県立大学としての使命を果たしていくことが求められている。 |
|--|

3 現状・課題と施策の方向

| 現状・課題 | 県の施策の方向 |
|--|---|
| 大学進学者の減少が予測される中、県内高等教育機関が、学生のさまざまな学修ニーズに応え、魅力的な高等教育機関として国内外の学生に選び続けられるためには、大学間や大学と地域、企業との連携の取組をより一層充実させる必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」等への支援を通じ、大学間・大学と地域、企業等との連携による教育・研究機能の一層の推進 ➡ 高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元 |
| 急激な技術革新の進展等により地域・社会で求められる資質・能力が大きく変化する中、社会情勢の変化に応じた質の高い教育の提供による、地域社会の発展に貢献できる人材の育成が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県立大学・静岡文化芸術大学における観光教育課程の設置など、地域のニーズに応じた人材育成への取組を支援 ➡ 静岡県立大学・静岡文化芸術大学の教育・研究機能の充実 ・静岡の地域資源をテーマとした単位互換授業の開催や高校への出張講座の実施等に係る支援を通じ、地域社会に求められる人材育成を推進 ➡ 高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元 |

| | |
|---|--|
| 関係機関と協働し大学等が有する高度な研究成果や専門的な知識を地域へ還元し、地域活性化に取り組む必要がある。 | ・ 公立大学法人化した静岡県立大学・静岡文化芸術大学における中期目標や中期計画達成のための取組を支援 |
| | ➡ 静岡県立大学・静岡文化芸術大学の教育・研究機能の充実 |
| | ・ 大学連携による地域課題等解決のための共同研究への支援等を通じ、県内大学の研究成果等を地域へ還元 |
| | ➡ 高等教育機関の教育・研究機能の充実とその成果の地域還元 |

4 施策の改善提案とその反映状況

県立大学の存在意義をこれまで以上に県民に伝える必要があり、そのための具体策として以下のような取組が考えられる。

- 県立大学の成果の可視化(卒業後すぐに県内で就職することだけが県立大学の意義ではない)
- 教育の質の充実と評価の可視化(定性評価以外の評価軸の設定)
- 出張講座の増加など、高校生へのアプローチの強化と中学生へのアプローチの実施
- 企業と学生のマッチングの強化による学生の県内企業の認知度向上
- これまで以上に県内大学間の連携強化を促進

これらの取組により、県民が県立大学の活動内容を知ることや学ぶことで、静岡県を好きになり、仮に県を離れたとしても静岡への愛着を持ってもらうことが「魅力ある高等教育」といえるのではないか。

- ふじのくに地域・大学コンソーシアム等が高等学校を対象に実施している出張講座等を中学校まで拡大し、早期に高等教育に触れる機会を創出するとともに、児童生徒や保護者等へ大学の情報発信を行うなど、県内大学の魅力の発信が必要

ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する大学連携講座に、小中学生や保護者を対象とした「しずおか生き物講座」を取り入れるなど、若年層から一般まで幅広い世代を対象とした講座等の開催を増やしている。

また、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する、学生が取り組んでいる研究成果等を発信する「ふじのくに地域・大学フォーラム」の開催や、教育委員会と連携した中高生への情報発信の場の創出などを支援し、県内大学の魅力発信の機会を増やしていく。

- 大学等と地域企業とのマッチングや連携を支援し、研究成果の民間活用と地域への還元を促進すべき

地域への更なる還元を図るため、ふじのくに地域・大学コンソーシアムが実施する大学等が連携して取り組む、地域課題の解決に向けた幅広い分野における共同研究助成の在り方を見直し、企業等との共同研究の取扱い等について検討予定である。

また、県大では、2019年4月、地域貢献活動と産学官連携活動を総合的に推進する「ふじのくに発イノベーション推進機構」を設置し、研究成果のさらなる地域社会への還元を目指している。

■ 大学と連携し、地域企業が求める人材像を調査・把握し、地域に貢献できる質の高い人材の育成を促進すべき

社会人の学び直しであるリカレント教育を推進する観点から、県内企業が求めるスキルなどを調査・分析し、県内高等教育機関にその分析結果を還元していく。

<2020 年度新規取組>

・リカレント教育推進事業（新規）

また、ふじのくに地域・大学コンソーシアムと県内経済団体が連携して、企業経営者と学生との交流の機会の創出に取り組んでおり、本県産業を支える人材として求められる資質等の相互理解を促進する取組を支援していく。

■ 大学の質の向上を継続的に図る評価については、自己評価だけでなく第三者からの外部評価及び分析をするとともに、評価基準や内容等を公表することが必要

県大及び文芸大においては、大学による自己点検・自己評価の客観性、公平性を担保し、大学の質の向上・改善を図るため、文部科学大臣が認証する評価機関及び知事の付属機関として設置している県公立大学法人評価委員会による外部評価を行っている。

評価基準や内容等については公表するとともに、指摘・提案事項に対しては改善に向けて取り組んでいる。

■ 学生の大学に対する評価等を実施し、継続的な改善により学生の満足度の向上を図ることが必要

文部科学省が実施する「全国学生調査」（全国の四年制大学の3年生全員を対象にし、授業への満足度や学習時間などを聞く調査：令和元年度は試行）を活用し、学生の満足度の向上を図っていく。